

## やんばるの歴史と文化

やんばるには、おそらく紀元前数世紀から人が住んでいたと考えられます。14世紀までに、やんばるは沖縄本島を支配したる3つの王国の1つである北山王国の一部となりました。北山王国は1416年に南の中山王国の軍隊によって陥落しました。中山王国は3王国を統合して琉球王国を設立し、1429年から続いた琉球王国は1879年に日本の明治政府によつて解体され、沖縄県となりました。

## 自然環境と結びついた人々

歴史を通じて、やんばるの人々は地域の森林を積極的に保守管理し、必要不可欠な資源を森林から得てきました。琉球王国時代より、やんばるは島内に木炭、薪、建築資材を供給していました。やんばるの伝統的な帆船によって盛んな貿易が行われ、林産物と引き換えに生活必需品がやんばるに持ち帰されました。集落の近くの特定の地域には、イノシシの侵入を防ぐために何百年も前に築かれた石垣があります。

## 琉球の信仰世界

琉球の伝統的な信仰では、海と山は一体であるとされました。御嶽として知られる神聖な場所は、岩、木立、または山全体で構成されていることがあります。御嶽は琉球の神々が訪

れ、祖先の神々が祀られる場所です。そこでは地域の儀式が行われ、多くの参拝者は今でもその場所を地域を守る聖域として崇拝しています。琉球王国の行政システムのもと、ノロと呼ばれる女性たちは、各村で巫女として仕えました。ノロは神と交信するとともに、人々が自然の恵みに感謝し、悪霊を追い払い、豊穰と豊漁を祈る伝統的な祭りを司っていました。最も重要な行事は今でも真夏に行われており、こうした祭りでは山の神に豊穰を、海の神に豊漁を祈願しています。祭りのいくつかは国の重要無形民俗文化財に指定されています。

### やんばるのコミュニティ

やんばるのコミュニティの配置と環境は、天然資源の利用を促し、伝統的なライフスタイルを維持する琉球の習慣を反映しています。集落はもともと川の周囲に作られており、農業や炭焼きなどの活動の指定場所が設けられたとともに、沖合のサンゴ礁は魚介類や海藻を供給しました。現在、やんばるの 10,000 人足らずの住民は 3 村に分かれて暮らしています。